

新型コロナウイルス感染症 乳幼児・学童における 健康観察のポイント

藤田医科大学

救急医学・総合内科学

岩田充永

小児における新型コロナウイルス感染症の特徴 【症候・病態】

- 変異株の出現によって、小児への感染性が高くなった
- 軽症例が多く、重症例，重篤例は非常に少ない
- 初発症状は発熱，咳，呼吸困難だが，無症状も多い
- 成人に比べて消化器症状(下痢)を呈する割合が高い
- 自覚症状を訴えることが難しい

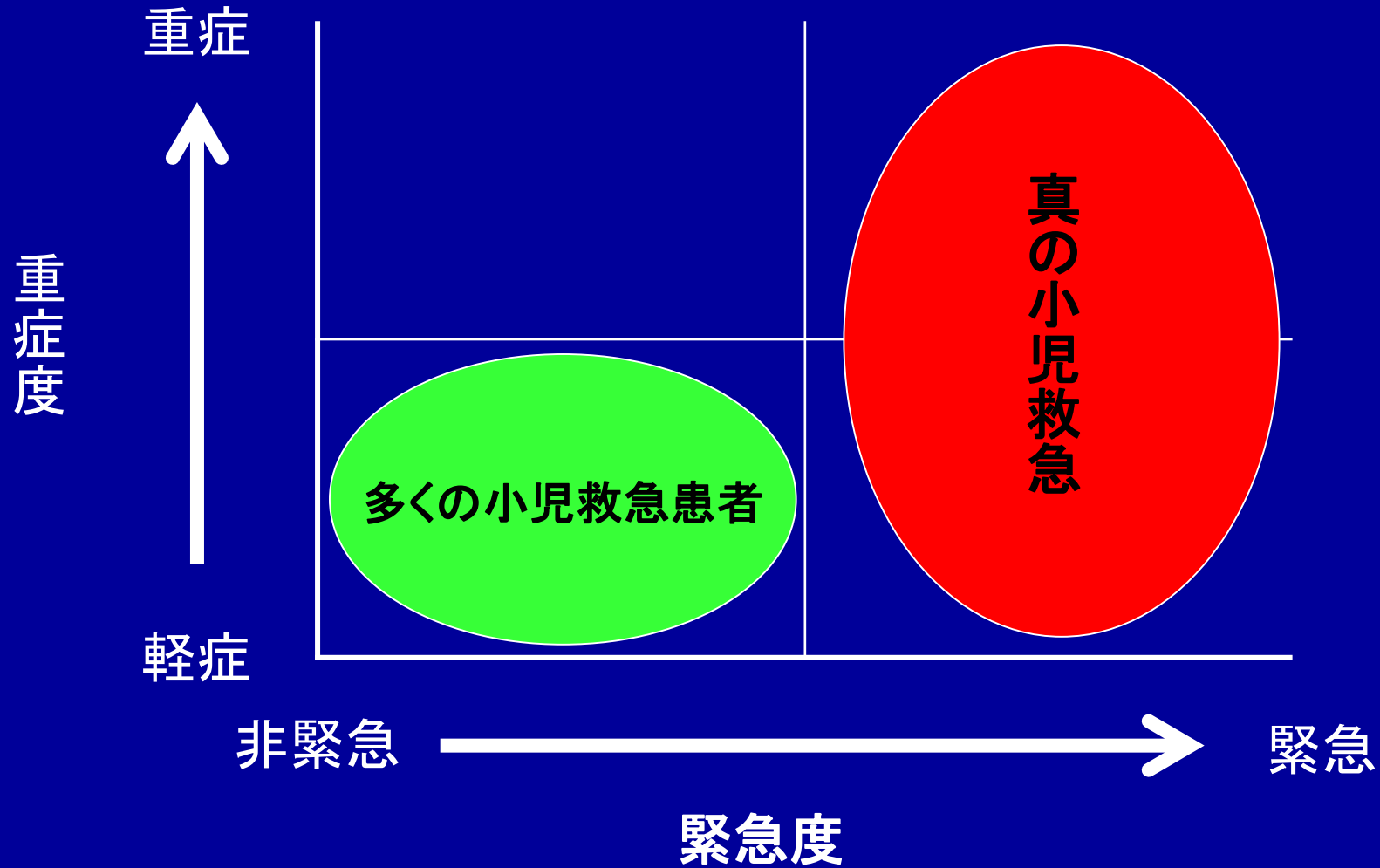
小児における新型コロナウイルス感染症の特徴 【症候・病態】

- 変異株の出現によって、小児への感染性が高くなった
- 軽症例が多く、重症例、重篤例は非常に少ない
- 初発症状は発熱、咳、呼吸困難だが、無症状も多い
- 成人に比べて消化器症状(下痢)を呈する割合が高い
- 自覚症状を訴えることが難しい

まれな、重症化を見逃す危険が大きい!!

小児救急の大原則に沿って評価をすることが重要

「緊急度」と「重症度」



第一印象で緊急度を判断する

意識(外観)

周囲への反応は？

視線は？

会話・表情は？

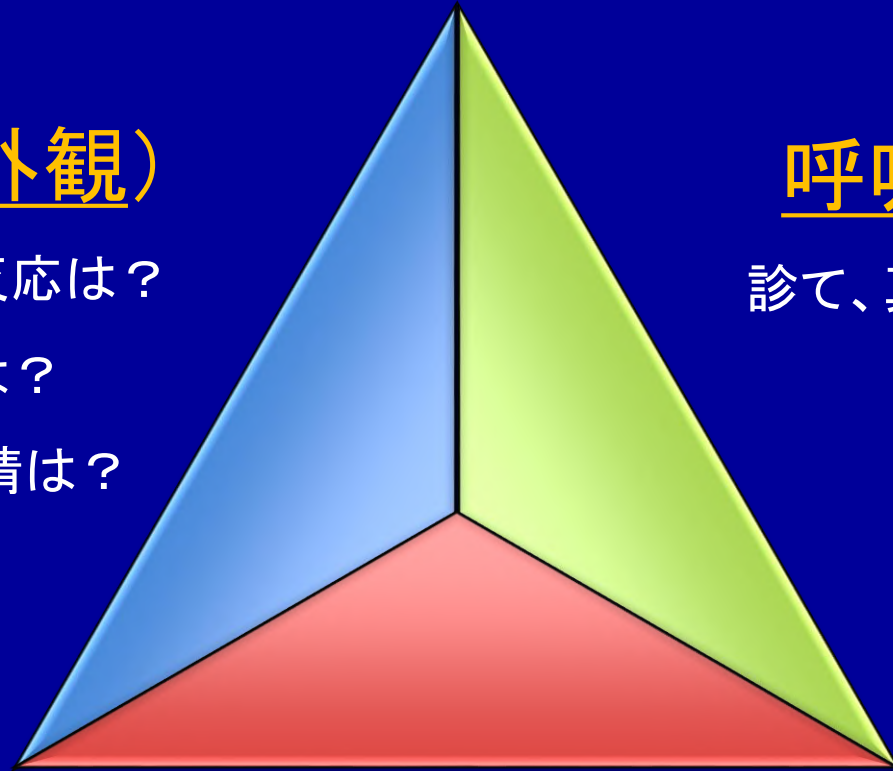
呼吸努力

診て、真似して...

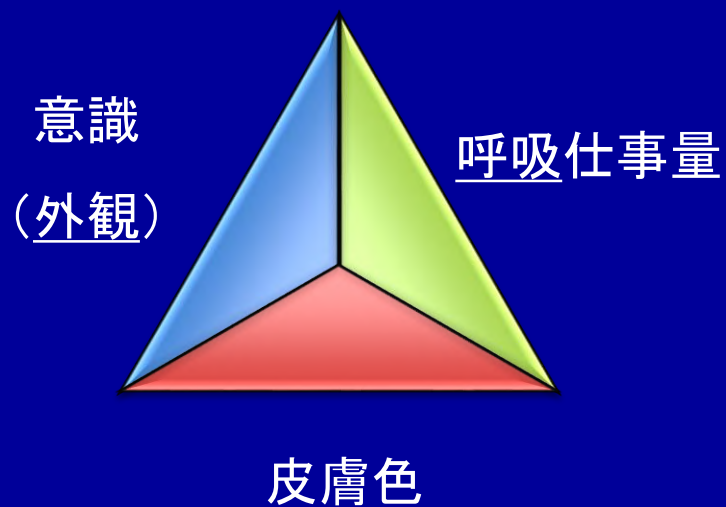
皮膚色

唇の色は？

Capillary refill



全身状態の評価



不良なら

救急要請

モニター装着

バイタル測定

血糖測定

初期対応開始

バイタルサイン正常値

年齢	体重 (kg)	呼吸数	脈拍数
新生児	3~4	30~60	120~160
6~12か月	8~10	30~40	120~140
2~4歳	12~16	20~30	100~110
5~8歳	18~26	14~20	90~100
8~12歳	26~50	12~20	80~100
>12歳	>50	12~16	60~90

収縮期血圧の正常下限

新生児(<1ヶ月)	60 mmHg
乳児(<1歳)	70 mmHg
1~10歳	$70 + \text{年齢(歳)} \times 2$ mmHg
10歳~	90 mmHg

体重は貴重な情報!!

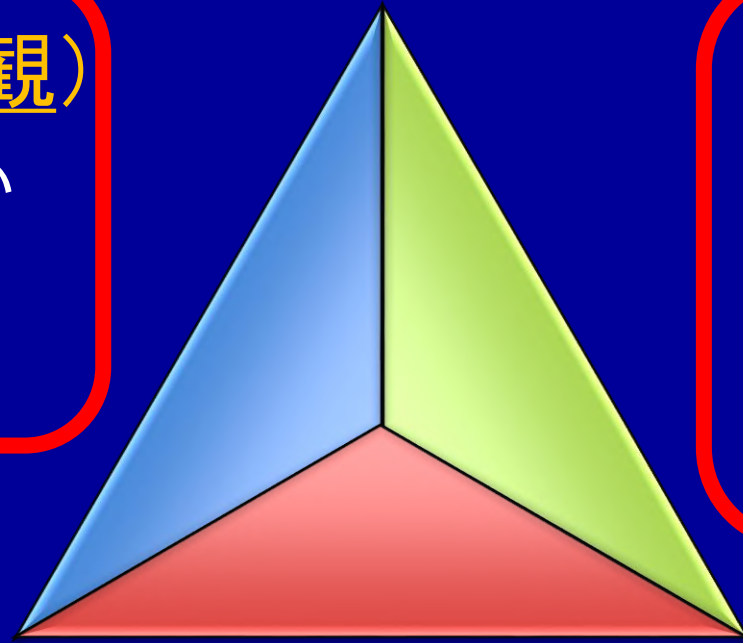
- 体重増加不良
 - ⇒ 何らかの基礎疾患、虐待の可能性
- 急速な体重減少
 - ⇒ 体液量減少の可能性
- ほとんどの薬は、体重により投与量が決まる
- $8 + \text{年齢(歳)} \times 2 = \text{BW (Kg)}$

気道・呼吸の問題

気道・呼吸の緊急を示唆する状態

意識(外観)

食べれない
歩けない
話せない



呼吸努力

診て、真似して・・・
上気道閉塞症状は？
多呼吸は？
無呼吸は？

皮膚色

チアノーゼは？

呼吸状態の異常をチェックする

鼻がピクピク
(鼻翼呼吸)

鎖骨の上が陥没

胸骨の上が陥没



顔面が蒼白

呼吸に際して首の筋肉が目立つ

肩が上がる

細気管支炎・鼻閉に注意!!

乳児では鼻汁による鼻閉で上気道閉塞の原因になり得る！

乳児は鼻呼吸が中心であるため、乳児の低酸素をみた時には、鼻閉がないか必ず確認する。

脱水

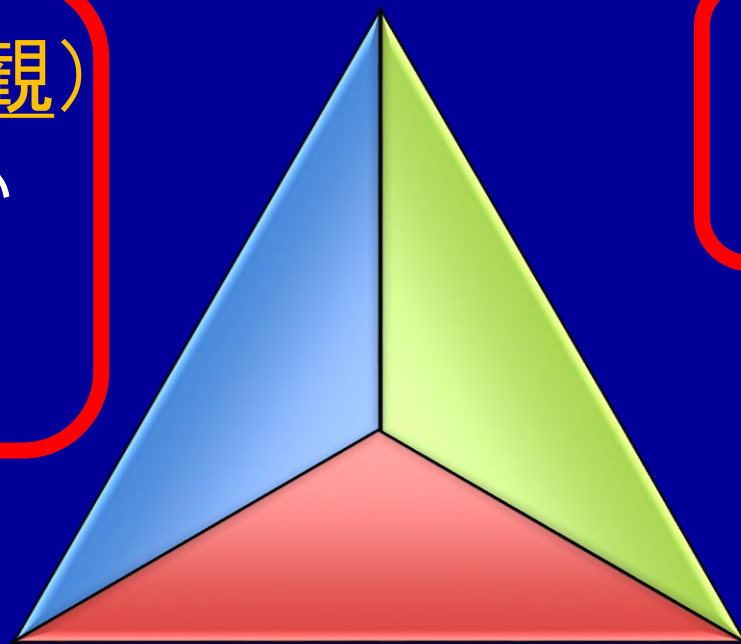
脱水を示唆する状態

意識(外観)

元気がない
意識障害
傾眠

呼吸努力

多呼吸は？



皮膚色

Capillary refill >2秒
皮膚・粘膜の乾燥

脱水を示唆する所見

- ツルゴール低下
- Capillary refill >2秒 (>3秒は高度脱水)
- 尿量減少
- 涙低下
- 呼吸様式の異常
- 血圧<70mmHg(新生児では<60mmHg)はショックと判断する

体重減少が最も良い指標!!

3~5%体重減少: 軽症

6~9%体重減少: 中等症

10%以上体重減少: 重症

経口補水液(ORS)

- ORS: Oral Rehydration Solution,
- 軽症～中等症の脱水ではORSでOK
- 軽症: 30～40ml/kg 4時間で
- 中等症: 100ml/kg 4時間で
- 嘔吐/回⇒2ml/kg追加
- 下痢/回⇒10ml/kg追加
- 脱水補正が終わったら通常の食事を

点滴のように、少
しずつ10分毎に
与えるのがコツ

ORS成分

種類	Na(mEq/l)	K(mEq/l)	Cl(mEq/l)	ブドウ糖(g/dl)
スポーツドリンク	9~23	3~5以下	5~18	6~10以上
市販ORS	50	20	50	2.5
ソリタT顆粒2号	60	20	50	2.2
ソリタT顆粒3号	35	20	30	3.4
アメリカ小児学会推奨	40~60	20	40~60	2.0~2.5

小児における新型コロナウイルス感染症の特徴 【生活環境】

- 小学校、幼稚園、保育園での感染は少ない
- 家庭内での感染(保護者→子、子→保護者)が多い
- 同居の保護者も陽性者・濃厚接触者として健康観察対象となっている場合がほとんど

小児における新型コロナウイルス感染症の特徴 【生活環境】

- 小学校、幼稚園、保育園での感染は少ない
- 家庭内での感染(保護者→子、子→保護者)が多い
- 同居の保護者も陽性者・濃厚接触者として健康観察対象となっている場合がほとんど

小児、保護者の精神状態への配慮が重要!!

虐待(身体的・ネグレクト)の発生に敏感になる

軽症であっても入院が必要となる場合の対応を理解しておく